

重要文化財を「収蔵」し、「展示」「活用」を図る

「只見町モノとくらしのミュージアム」(仮称)

大倉地内を走る国道289号沿い、会津只見考古館の隣に大きな建物が建設されています。これは平成15年、国重要有形民俗文化財に指定された「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」を保管するための収蔵施設です。この建物は、会津只見考古館とつながって一体化した施設となり、「只見町モノとくらしのミュージアム」(仮称)として整備される計画です。只見町の宝である重要文化財を「収蔵」し、「展示」と「活用」を図る拠点施設として、令和4年4月の開館を目指しています。本号では、これまでの歩みや整備計画の内容などについて紹介します。

民具収蔵展示施設 整備までの歩み

民具とは、昔から受け継がれてきた農具や漁具、生活用具のことです。民具は、当時の生活に欠かすことのできない重要な物でしたが、農家住宅の建て替えと農業の機械化によって昭和40年代から捨てられていくようになりました。そこで、消失しそうな民具を残そうという機運が高まり、収集が始まりました。集まった民具は旧分校や旧寄宿舎などに分散して保管されたのです。

その後、平成元年から開始された町史編さん事業によって、これらの民具を整理する事業が展開されました。整理作業は実際に使用してきた町民自らが掃除をして写真を撮り、整理分類した後、「民俗資料調査カード」に記録するという工程で行われました。こうした取組は、民具整理の先進事例として「只見方式」と呼

ばれ、国内のみならず、海外からも視察する人が訪れるようになりました。整理された民具は10,000点を超えましたが、その中の2,333点が国重要有形民俗文化財として指定されており、これらの民具は朝日振興センター前の旧朝日公民館に保存されています。しかし、同公民館も老朽化が進み、近年では貴重な民具類を展示する場所も無いといった状況でした。

こうした状況を受け、町では、平成25年に民具収蔵展示施設検討委員会を立ち上げ、展示施設の構想やコンセプトについて検討を行いました。翌年に「民具収蔵展示施設基本構想」としてまとめ、平成28年には「民具収蔵展示施設基本計画」を策定、それをもとに基本設計と実施設計を組み、昨年6月より同施設の建設に着手したのです。

「只見町モノとくらしのミュージアム」(仮称)構想

令和4年4月開館予定

「展示」「活用」エリア【会津只見考古館】

- 展示ゾーン
縄文時代から現代までのモノ(土器から民具まで)
- 体験ゾーン
さまざまなモノを使った体験活動を行う

「収蔵」エリア【現在建設中の建物】

- 収蔵ゾーン
国指定重要有形文化財2,333点を保存する
※令和3年9月より旧朝日公民館から移動
- 展示ゾーン
企画展示を行う

渡り廊下

※本図はイメージであり、実際に建設中の建物とは異なる部分があります。

「収蔵エリア」(建設中)



◀旧朝日公民館



▲建設中※1月末時点



- 旧朝日公民館に収蔵されている国指定重要有形民俗文化財を移して収蔵する。
- 企画展示を行う。

「展示」「活用」エリア(現考古館)



- 展示内容を一新する。
- 体験活動ができるコーナーを設ける。
- 改修工事を検討する。
- 民具収蔵展示施設と現考古館の建物を「渡り廊下」で結ぶ。

町内外の有識者などが集う 準備検討委員会を発足

3ページで紹介したように、新たに建設される民具収蔵施設は、既存の会津只見考古館と渡り廊下でつながり一体化した施設となります。基本構想で示された理念をもとに、これら一体化した施設を「只見町モノとくらしのミュージアム」とくらしのミュージアム(仮称)として収蔵し、展示する計画です。具体的には、現在建設中の建物を国重要有形民俗文化財である民具を収蔵する施設とし、渡り廊下でつながる会津只見考古館の改修工事を行い、土器から民具までを展示して体験する施設にする構想となっています。

このミュージアムの組織や運営体制、展示活用方法、そして旧朝日公民館に残っている民具のあり方について具体的に協議していくため、「只見町モノとくらしのミュージアム(仮称)準備検討委員会」が設置され、

町内外の有識者を含めた12名の委員が委嘱されました(表1)。今年1月14日に開催された検討委員会では、正副委員

表1 只見町モノとくらしのミュージアム(仮称)準備検討委員会委員

氏名	役職
佐々木長生	委員長
久野俊彦	
飯塚恒夫	
新国勇	副委員長
星美弥子	
馬場敏行	

氏名	役職
山崎行弘	
目黒良樹	
三瓶こずえ	
平山真恵美	
横田雅則	
中野陽介	

員長が選出された後に早速、現地視察が行われ、今後の日程や展示活用構想についての協議が始められています。



準備検討委員会で
展示内容などを検討する

只見町モノとくらしのミュージアム(仮称) 準備検討委員会

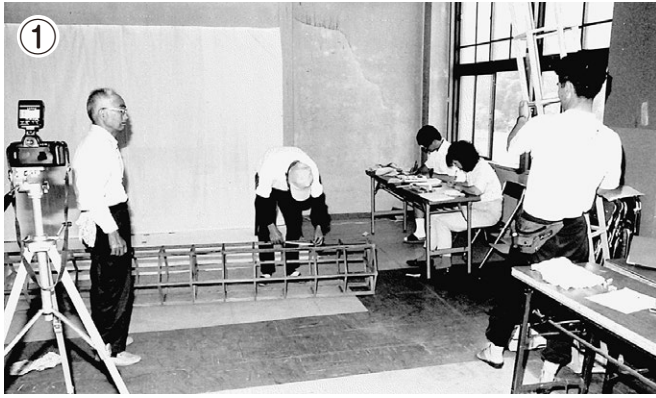
委員長 **佐々木 長生**さん



福島県相馬市出身。福島県立博物館専門員の時に、町民とともに民具整理を行い、それ以来、只見の民具に関連した事業や研究に携わる。

只見町では50年来収集してきた民具が整理され、その数は10,000点を超えています。その中の2,333点が、「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」として国重要有形民俗文化財に指定されています。これらは町内のお年寄りが自ら調査・整理したもので、町民が作り上げた町の宝です。只見町の民具整理は「只見方式」とよばれ、全国的に高く評価されています。今年11月7～9日には、日本民具学会の大会が只見町で開催され、全国各地からたくさんの研究者が集まります。只見町の民具はそれほど価値が高いものなのです。

このたび国重要有形民俗文化財を収める民具収蔵庫が大倉に建設され、会津只見考古館と一体化した新たな施設が誕生します。只見町モノとくらしのミュージアム(仮称)準備検討委員会では、只見ユネスコエコパークの地に、自然に抱かれたくらしと歴史を伝え、町民が誇ることができるミュージアムとなるよう鋭意努力していく所存です。町民各位のご支援とご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



▲①民具の寸法を調査 ②民具の収集作業 ③「民俗資料調査カード」により民具を整理 ④各メディアに取り上げられる機会も増えていった

多くの町民の想いが 詰まった施設に

町民の皆さんの手によって日々失われていく農耕用具や生活用具が集められ、整理・収蔵するまでに50年という歳月が過ぎようとしています。これらに携わった方々の多くは他界されてしまいました。しかし、きれいに磨かれて整理された膨大な数の民具は整然と保管され、使用方法や思い出を書き綴った13,000枚にもものぼる「民俗資料調査カード」も大切に保存されています。そして、今もお、町民の皆さんから民具の寄贈があります。

これらの民具は、現在も学校教育の場などで活用される機会が多く、町の歴史や文化を次世代に伝えていくという点で非常に重要な役割を担っています。

先人から受け継いできた町の宝である「民具」。その宝を遺していこうとする町民の皆さんの強い意思が、

これまでの成果を生み出す原動力となってきました。「只見町モノとくらしのミュージアム」(仮称)は、町民の熱い思いが詰まった施設となるよう、令和4年4月開館を目指して着々と検討が進められています。



▶民具調査・整理の成果である「民俗資料調査カード」

お問い合わせ先

只見町教育委員会生涯学習係

☎ 0241-82-5320

(只見町モノとくらしのミュージアム(仮称))
(準備検討委員会 事務局)

▶旧朝日公民館で民具について学ぶ児童
同公民館は町内小学校を中心に、
学習の場として積極的に活用されている

